

スマイルライフ通信

平成28年 2月

NO. 5

徳之島地区 医療・介護連携推進事業

～ 最期まで自分らしく笑顔で過ごせる島を目指して ～



10月～12月にかけて、各種講演会や研修会が開催され、それぞれに各職種や住民の方々も数多く参加され学びを深めていきました。多職種連携の事例検討会には、これまでの最多の120名！の参加者があり、連携・チームケアや、看取りケアに関する関心が高まり、みなさんが学びの場を求めていることがよく分かりました。地域のニーズに応えられる企画調整を今後も運営委員の方々とともに頑張っていきたいものです。

県看護協会会長の田畑千穂子先生にご来島いただきました。10月26日～27日、多職種の事例検討会、住民向けシンポジウム&講演、看護職対象の研修会とたいへん濃い、学びの多い2日間となりました。

「住み慣れた家で自分らしく過ごし続けること」
その生活を支える専門職からの報告
～わきゃや（我が家）が一番！！～

平成28年10月27日(木)13:30～15:30
天城町役場4階ユイの里ホール
参加者:197名(専門職91名 一般住民 106名)



講師の田畑千穂子先生とシンポジストを務めた
徳洲会介護センター介護支援専門員 富山百繕さん
徳洲会訪問看護 木原寿美子さん
愛心園訪問介護 井上末子さん

<介護支援専門員の立場から>富山さん
・ケアマネジャーの役割は、1人ひとりの想いに寄り添い、生活の困りごとについて関わる関係者みなで解決する方法を話し合い、我が家で暮らせるようにすること。
・そのためには「どう暮らしたいかを家族や周囲に日ごろから思いや希望を伝えておくことが大事です。
・実際に、病気や障害を持ちながらも、「我が家」でいきいきと、幸せに暮らす方の生活の様子や家族、親せき、近隣の方々を含む関係者の連携と支えを具体的に伝えてくれました。
・「病気や介護が必要になっても住み慣れた我が家で暮らす方法はあります。1人で悩まなくていいんですよ。あなたを支える応援団はたくさんいます！」
力強い応援団をつくり支えるケアマネジャーは在宅ケアの要です(^)



＜訪問看護の立場から＞木原さん

- ・自分自身の母親の看取りや、看護職として、故郷の島で念願だった訪問看護に従事している事への想いを語ってくれました。
- ・ご自宅で過ごす患者さんひとり1人の想いと生活をきちんと見た、看護ケアの提供を基本として、時には畑への訪問となり、時には本人に喜んでもらいたい、と三味線を披露する看護師さんの姿など島ならではの訪問看護。
- ・住み慣れたわきゃや(我が家)での旅立ち、在宅という選択肢も「いつでも病院への入院はできますよ」と伝え、みんなで支えていくことを事例を通して話をしてくれました。



＜訪問介護の立場から＞井上さん

- ・訪問介護とは、ご本人の一番身近で支援する存在です。
- ・ご本人の自分らしい暮らしを自立支援の理念のもとに、専門的に支援するのがホームヘルパーの役割であることを具体的な事例をあげて示してくれました。全盲で独居の男性が、自分でご飯が作れるようになるまでの段階的な支援、ご夫婦での生活を続けられるように状況に応じた対応、関係者がしっかり支え、介護者との信頼関係を持つことで「最期まで家で見てあげたい」とご家族の気持ちの変化がみられたこと。
- ・ご本人の「自分の家で暮らしたい」という意思があれば、それを叶えるために関係者が動く。一番身近で頻回に関わる訪問介護だからこそ気づく、本人と家族の気持ちや状況をチーム全体で共有できるように、高い専門性が要求される仕事です！

＜参加者からの感想＞

- ・様々な業種の立場からの意見は思いも伝わり勉強になり、在宅でサービスを受けながら自分らしく過ごすこと、その方の日常に関わっていくことの大切さを感じることが出来ました。
- ・良い話を聞かせてもらいました。ありがとうございました。自分の死についてもう一度考えさせられました。
- ・90歳の父と同居しており、先のことが不安でした。今日の話聞いて、いろんなケアを受けることが可能なんだなあと少し不安も取り除くことが出来ました。
 - ・わかりやすく、身近な例を挙げながらの講話は大変良かった。自分の老後を考えさせられました。家族の大切さを改めて思う事でした。
 - ・わきゃが家が一番。響きがいいです！自分が住み慣れた所が一番ですね。
 - ・好きなことをやって最後は自分の家で旅立ちたい。



多職種合同事例検討会(伊仙町ほうらい館)
平成28年10月26日(水)18:30~20:30
参加者:118名

「最期までその人らしい生活を支える看取りケアについて」島出身で、県PT協会でも活躍している富岡PTの分かりやすい講義もありました。
ケアマネジャー、看護・介護職をはじめ、歯科医師、リハ職、MSW、訪問介護等の多職種が参加し事例を通して看取りケアに関わるそれぞれの役割と連携を考えていきました。

＜参加者の感想＞

- ・職種が違って、目指したいところは結局一つの事に結びついて行く…患者さん、家族さんへ寄り添いながら気持ちを共有したい。
- ・ターミナル期のリハビリについて知識が得られた。
- ・実際に他施設・他職種の方とかかわり、意見交換できて良かった。様々な事例検討もしていきたい、今後のサービスにつなげていきたい。
- ・チーム連携を大切に在宅ケアを頑張っていこうと思います。

看護職等研修会

「看護倫理」

平成28年10月27日(木)

18:00～20:00 徳洲会病院ディケア室

参加者 61名

看護職という「プロ」であること。患者の想いを引き出す「看護」のあり方。倫理原則と倫理要綱。など、難しいテーマですが、具体的な事例を通して、実は日々の看護実践と深く関わり、結びついていることであることが良くわかり、看護職として、実践を通して学び続ける必要性を感じさせられました。

〈参加者の感想〉

- ・インフォームドコンセントに臨む患者さんや、その家族に対して事前に対応していく（関わっていく）ことの大切さも学ぶことができてよかったと思います。患者さんの自己決定権を尊重し、かつ、安全、安楽な対応、患者さんの思いを考えて対応（関わっていく）していくことが大切だと思いました。
- ・医療安全、守秘義務、看護倫理 についてももう一度考えて行動をしなければならないと再確認させられた。
- ・何度きいても自己の仕事に対するの振り返りと必要なもの、大切なものは何かを考えさせられます。

住み慣れたまちでいきいきと自分らしく生きる！

「地域包括ケア時代の医療と介護そして地域」

平成28年11月30日18:30～20:30 ほうらい館

【地域医療活動報告】

徳洲会病院副院長 水田博之先生

患者さんからの信頼も厚い水田先生。訪問診療の現場はもちろん、離島という地域性を踏まえた、全人的な医療の実践活動を熱く語ってくれました。

自分の器をひろげる。「できない、私の仕事ではない」と言わずに話を聴く、できることをしてつなげること！

ますます水田ファンが増えました～(^^)／



【櫃本真聿先生講演】

ユーモアを交え、辛口で歯切れ良い語り口は、医療・保健・介護のあり方を根底から考えさせられる講演でした。

- ・まずは関係者がしっかりと「ゴール」を共有すること。目標の明確化・共有化。(目標達成型)
- 「満足できるその人らしい人生を実現するための社会資源としての医療介護である」こと。
- ・入院は退院のためにある。入院前から退院支援。地域へ戻す医療充実、つなぐ連携から切らない継続へ。
- ・日本を支えるのは「元気高齢者」！
- ・ありがとう「言われる」高齢者を目指す！互いに必要とされる、元気高齢者の活躍の場をつくる。
- ・元気高齢者とは、ときどき医療、ときどき介護、ときどき就労。自分らしく生き、社会貢献できる人。たとえ寝たきりでも人に笑顔と幸せを分けられる人。
- ・住民が全てかかりつけネットワークに支えられる仕組みづくりを。自分らしい生き方死に方を明確にしてそれを実現するために。医療は生活資源。
- ・ヘルスプロモーションと地域包括ケア
- ・ソーシャル・キャピタルの醸成によるコミュニティの再生
- ・徳之島は長寿と子宝の島。元気高齢者が多いことが、安心して子どもを産み育てられることにつながっている。今後もこの島の良さを活かして皆で同じ方向性で進んでいくことが大事！

先生のブログに徳之島講演が紹介されています。ご一読ください！

櫃本真聿.COM 走る!!ヘルスプロモーション

<http://hitsumotoshinichi.com/>

今年もお世話になりました！ 鹿児島県地域における訪問看護職員等人材育成事業

「介護職員のためのターミナルケア研修会」

平成28年12月9日(金)

①伊仙会場(仙寿の里会議室)

②徳之島会場(徳之島町社協2F和室)

講師 小栗由貴子先生(鹿大病院 緩和ケア認定看護師)

齊藤由紀子先生(病棟看護師長)

その人らしく生きるための看取りケアについて
看取りの経過や予後予測、症状に応じたケアについて具体的にお話がありました。

<参加者の感想>

- ・緩和ケア、ターミナル、やってあげられることはたくさんあると気づいた。
- ・分かりやすく勉強になった、理解を深めることができた。
- ・一般の方にも知ってほしい。



「認知症疾患の理解とケアについて」

「認知症患者の危機管理(事故防止の対応方法)について」

平成28年12月19日(月)18:30~20:30 天城町役場

鹿大看護部 吉井 洋之先生、中野宏美先生

参加者 65名

認知症の方の表面的な状態だけで判断せず、ご本人の持つ力やこれまでの生活を知ること、ご本人の理解とペースに合わせた対応をしていくこと。自分がゆとりをもって、“快”の感情を引き出せるようにかかわること。転倒防止だけではなく、転倒しても怪我をしないように、危険を想定した準備が大切。



<講演会のお知らせ>

来年度、徳之島町亀津に「小規模多機能居宅介護事業所」が新たにオープンします。

この機会に「介護」について 地域住民、医療介護福祉関係者も ともに考える研修会を開催します。講師は、全国小規模多機能事業者連合会の副代表を務め、全国各地での講演、厚労省の委員を担うなど、全国区で活躍している鹿児島県認知症介護指導者の黒岩尚文先生。

「介護」とは、暮らしをつくり、人生をつくり、地域をつくる力を持つもの。

小規模多機能居宅介護だけではなく、どの介護事業所でも、意識が変われば、介護が変わる。みんな学び、考えてみましょう。

平成29年3月21日(火)午後2:00~4:30 徳之島町生涯学習センター

【編集後記】

地域包括ケアシステム推進の上で、最も大事なことは「本人の選択と本人、家族の心構え」です。今回、シンポジウム・講演会と、地域住民の方も多く参加されたことは意義のあることでした。今後も地道に住民啓発や広報を継続するとともに、行政も、医療や介護もそれぞれの立場から、様々な場づくりができると良いですね。

ここで紹介した講演等の他にも、NPO法人がんサポートかごしま主催の講演会や、徳之島地区の認知症初期集中支援チームの展開など、お知らせしたいことも多くありましたが、限られた紙面のため残念です！

【事務局：徳之島町地域包括支援センター】